



TITLE:

<巻頭言> 低炭素社会実現に向けて

AUTHOR(S):

森, 詳介

CITATION:

森, 詳介. <巻頭言> 低炭素社会実現に向けて. Cue 2009, 21: 1-2

ISSUE DATE:

2009-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/84708>

RIGHT:

巻頭言

— 低炭素社会実現に向けて —

昭和38年卒 関西電力株式会社 取締役社長 森 詳 介



(1) 地球環境保全は人類喫緊の課題

近年、地球環境保全が人類喫緊の課題となり、温室効果ガス排出抑制に向けた取組みが、世界中で行われるようになってきました。

関西電力では、いち早く1990年に「地球環境アクションプラン5原則」を定め、「資源・エネルギーの効率的利用の促進」や、「CO₂分離・回収等先進的な技術開発への挑戦」など、積極的に取り組んできました。発電時にCO₂を排出しない原子力発電所の安全・安定運転はもとより、火力・水力発電所の発電効率向上などに努めてきた結果、当社の発電量あたりのCO₂排出量は、現在、日本の電力会社の中でも最も低いレベルにあります。

一方、こうして発電した電気を、お客さまがより効率的にお使いいただけるよう、省エネのコンサルティングや高効率機器のご提案にも力を入れています。なかでも、大気などの熱エネルギーを有効活用して投入エネルギーの何倍もの熱を利用することができるヒートポンプ技術を使った給湯機器「エコキュート」の普及拡大に努めています。

さらには、海面上昇による水没の危機に瀕しているツバル国の太陽光発電設備の建設・運転の支援や、ニュージーランドの風力発電など、海外での活動にも力を入れています。

(2) 低炭素社会実現に向けて

昨年の洞爺湖サミットにおいて、G8は、「世界の温室効果ガスを、2050年までに半減する」という長期目標を世界で共有するよう、求めていくことに合意しました。

これを受け、わが国でも、昨年7月、現状から6～8割の温室効果ガス削減を目指す「低炭素社会づくり行動計画」が閣議決定されました。これは、持続的な経済成長や、快適な生活を維持しながら、「低炭素社会」構築を目指すというものであり、これを実現していくにあたっては、発電時、使用時の両面で省CO₂を進めることができる電気エネルギーが、重要な役割を果たしうると私たちは考えています。

とりわけ、原子力、火力、水力など様々なエネルギー源の長所を組み合わせる発電した電気をネットワークを通じてお客さまにお届けする「系統電力」は、大きく貢献できると考えています。

例えば、太陽光などの再生可能エネルギーも、天候により出力が大きく変動するという不安定さがありますが、これを電力系統につなぐことによって、その弱みを補うことができます。ただし、大量に接続した場合には、電気の安定供給に影響を及ぼす可能性があるといった課題もあります。

そうしたことから、当社では、平成21年度、堺市臨海部に、事業用の大規模な太陽光発電設備を建設する計画であり、その運用を通じて、諸課題の検証に努めるとともに、得られた知見については広く公表し、一層の普及につなげていきたいと考えています。

このように私たちは、低炭素社会実現に向けて責任ある事業者として、環境に優しい電気を安全安定的にお届けして、人々の生活や産業活動の基盤をしっかりと支え、社会の発展に貢献していくべく、

日々努力を続けています。

（３）大学の研究に期待

一方、今後、世界が低炭素社会を目指していく中で、最も重要な鍵を握るのは研究開発・技術開発であることは間違いありません。

例えば前述の政府の目標にしても、その達成のためには、技術の大きなブレークスルーが不可欠です。この点、最高水準の技術を有するわが国に対する世界の期待は、今後ますます高まっていくものと思います。

なかでも、京都大学においては、宇宙太陽光発電をはじめ世界をリードする多くの革新的な研究がなされていると伺っています。「一人、善く射れば百夫決拾す」という格言があります。これは、「優れた矢を射った者に引っ張られて、周囲の者も矢を射るようになる」という意味ですが、そうした皆さま方の研鑽が、さらなる技術の飛躍を導き、より安心して快適な未来への展望が開かれんことを、心から祈念する次第です。